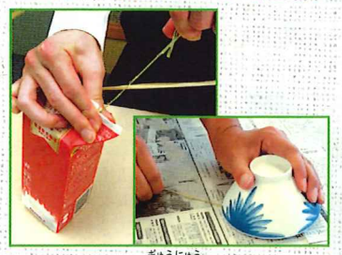
7 お米にする

もみすりには、軟式野球ボールの硬さがちょうどいいよ!

①脱こく（穂からもみをとる）



茶わんや牛乳パックの中に穂を入れて引っ張ると、もみが容器の中に残ります。

②もみすり（玄米にする）

すりばちにもみを一握り入れ、軟式野球ボールでゆっくり上の方まですり上げます。息をふきかけて、もみがらを飛ばします。

③精米（白米にする）

玄米をビンに入れて棒でつき、出てきた粉（ぬか）はふるいなどで落とします。

上手につくるポイント

台風対策	スズメ対策	病害虫対策	水温管理
台風などの強風の時はバケツ稲を屋内の冷房が効いていない場所に移動させましょう。	稲の周りに園芸用の支柱をたて、隙間がないように網を張ります。	はん点などが出た病気の葉や、害虫はその場で取りのぞき、病気の稲は他の稲と離して育てます。バケツの水にボウフラが発生した時は、水と一緒に流し出して新しい水に入れ替えます。	水は20℃～30℃が適温です。水温が高くなりすぎる場合は、水を入れ替えましょう。

JAグループがすすめる「よい食プロジェクト」とは

心と体を支える食の大切さ、国産・地元産の豊かさ、それを生み出す農業の価値を伝え、国産・地元産と日本の農業のファンになっていただこうという運動です。バケツ稲づくりセットには、子供たちに稲作体験をしてもらうことで、農業を身近に考えるきっかけになってほしいという想いが込められています。

JAグループが提起する「国消国産」とは

「私たちの『国』で『消』費する食べものは、できるだけこの『国』で生『産』する」というJAグループの考え方です。できるだけ国産のものを食べて農家さんを応援し、生産現場を支えることが、私たち自身の「食」を未来へつなげることと考えています。

バケツ稲づくりマニュアル

【監修】石井卓朗（国立研究開発法人 農研機構 作物研究部門スマート育種基盤研究領域長 農学博士）

【参考文献】『お米が実った』（JA全中）『ジュニアファクトブック 食料・農業・JA 改訂版』（JA全中）
シリーズ『写真でわかるぼくらのイネつくり』農文協編（農文協）
シリーズ『米で総合学習 みんなで調べて育てて食べよう!』横田不二子著（金の星社）
『農学基礎セミナー 作物栽培の基礎』栗原浩他著（農文協）

【編集・制作】株式会社 日本農業新聞

バケツ稲づくり事業
主催：（一社）全国農業協同組合中央会
後援：文部科学省／農林水産省／全国都道府県教育委員会連合会／全国市町村教育委員会連合会／全国連合小学校長会
協賛：全国農業協同組合連合会／全国共済農業協同組合連合会／農林中央金庫／全国厚生農業協同組合連合会／(株)日本農業新聞／(一社)家の光協会／(一社)全国農協観光協会／(公社)米穀安定供給確保支援機構
推薦：全国小学校理科研究協議会／全国小学校社会科研究協議会／全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会／日本理科教育協会／日本理化学協会／日本生物教育会

わからないことがあったら相談室に質問してね!

バケツ稲づくり相談室
☎03-6281-5822
10：00▶17：00
（土・日・祝・年末年始はのぞく）

個人情報の取り扱いについて：いただいた個人情報は、「バケツ稲づくり」事業の資料等の送付やバケツ稲づくりに関する事業のみに使います。

耕そう、大地と地域のみらい。JAグループ

バケツ稲 ®JA-ZENCHU 2005

笑味ちゃん ©よい食P

バケツ稲づくりマニュアル

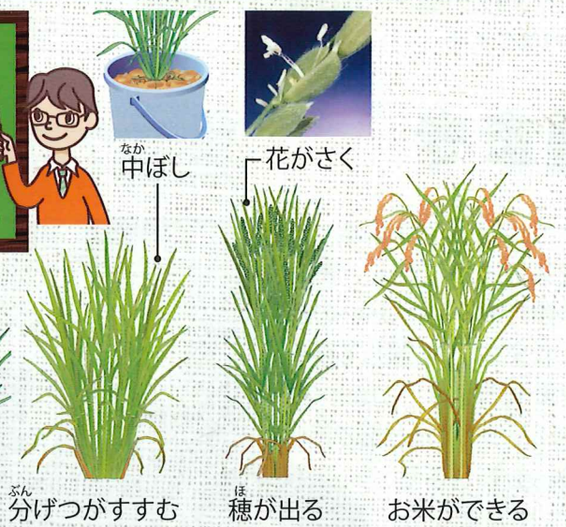
観察しながら稲を育ててみよう！

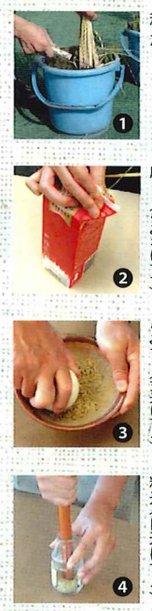
マニュアル、観察ノート、指導書は、JAグループホームページ「お米づくりに挑戦（やってみようバケツ稲づくり）」webサイトから印刷できるよ

バケツ稲づくりカレンダー

こちらを用意しましょう!

- ポリバケツ（10～15リットルのもの）
- 種もみ・肥料セット（※写真と実物は異なる場合があります）
- 土（黒土、赤玉土（中粒）、鹿沼土（小粒）を混ぜます）





土の準備

土は、「黒土6、赤玉土（中粒）3、鹿沼土（小粒）1」の割合で用意し、ビニールシートなどに広げて乾かして、肥料を混ぜます。

セットの肥料は、チッソ、リン酸、カリの3要素を含む化成肥料で、収穫まで肥料を追加しなくても育ちます。

使用する土の種類と注意点：黒土が販売されていない地域で、黒土のかわりに荒木田土を使う場合は赤玉土を2、3割混ぜてください。荒木田土もなく培養土を使う場合は、有機肥料の使用がない、または少ないものを選んでください。土の説明書きに肥料入りとあるものには最初は肥料を入れないで、中ぼし終了後に肥料を入れてください。

▲乾かすと土にすんでいる菌が活気づき、稲の成長を応援してくれます。

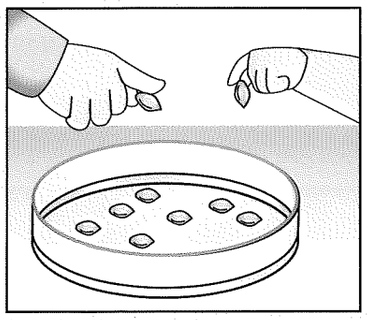
▶肥料は、1つのバケツあたり1袋入れます。

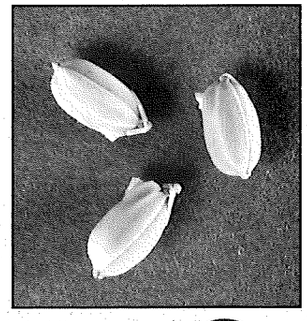
1 芽出し

白い芽（鞘葉）が 1 mmくらい
見えたら種まきできるよ!

シャーレなどの浅い容器に種もみがひたるくらいの水を入れます。水にひたした種もみは、室内のあたたかい場所におきましょう。

種もみに酸素がじゅうぶんに行きわたるよう、水は毎日とり替えます。

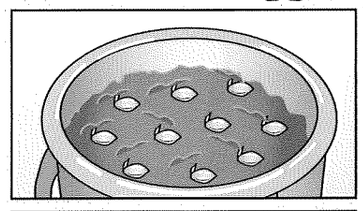




2 種まき

種もみをまいた日をお名前シールにメモしてね
※種もみをスズメに食べられないように、葉が 5cmくらいのびるまでざるをかぶせます。

水とよく混ぜて泥になった土を入れたバケツに、表面に水がたまらないくらいの水を入れます。少し離して種もみをまき、深さ 6 ～ 7mm（種もみふたつ分）ほど指で押し込み、土をかぶせます。土が乾いたら、土の表面が湿るくらいに水をまきます。



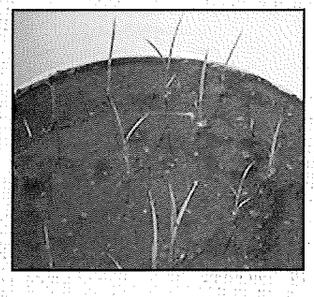
土を作る時にセットの肥料を 1 つのバケツあたり 1 袋入れます。

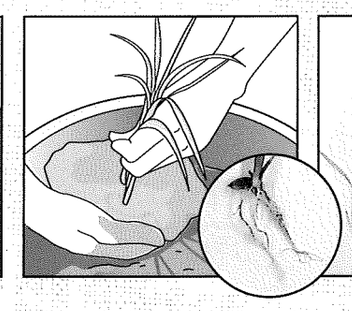
3 苗の移し替え

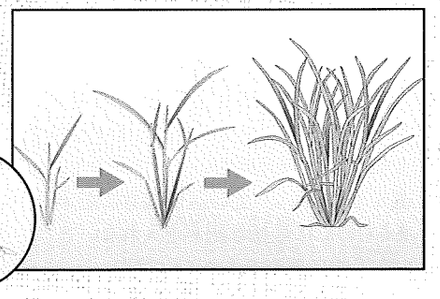
稲の背が高くなって倒れそうな
場合は、支柱を用意しましょう。

葉が 3 ～ 4 枚にふえたら根ごとやさしく苗をぬき、茎が太く育ちのよい苗を 4 ～ 5 本にまとめ、バケツの中心に、2 ～ 3cm の深さに植えます。そこに水を 1cm の深さに張って、根付いたら 5cm の深さで水を張ります。

苗を移し替えた後から茎が増えていきます。このような稲の枝分かれを「分げつ」といいます。



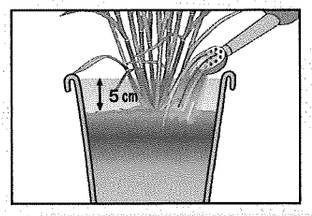




4 中ぼし

中ぼしをすると、土は酸素を取り込み、根は水を
求めてのびるので、じょうぶな稲が育つよ!

稲の茎数が 20 本、草丈が 40 ～ 50cm程度になったら水をぬき、雨が入らない軒下などに移動させます。土とバケツの間に隙間ができたらバケツに水を 2cm入れ、なくなったらまた 2cm入れます。4 回繰り返した後、5cmの水を入れて保ちます。



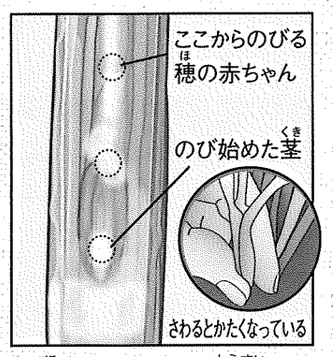
中ぼしの注意点

- 中ぼしの回数は 1 回です。
- 雨が入らず風通しの良い屋外に移してください。

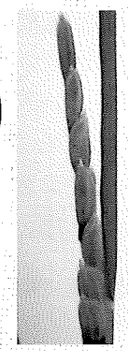
※狭い容器のバケツ稲での中ぼしは、乾かし過ぎに注意が必要です。葉が細くまるまって針状になったり、色が黄色くなってくると水分不足です。すぐに水を入れて中ぼしを終了してください。気温によっては**1 日で枯れる場合があります**ので、よく観察しながら行いましょう。

5 お米になる

穂が出たらスズメに
食べられないように網を張ろう!



①穂の赤ちゃん（幼穂）ができると、茎がふくらみ、約 20 日で穂がでます。



②つぼみがわれて花がさきます。おしべの花粉がめしべにつき、受粉します。

稲の花

③もみの中のでんぷんが固まって重くなり、穂がたれてきます。

茎がふくらみ始めてから穂が出るまでは 5cm の水を保ちます。穂が出た後は 3cmの水を保ちます。

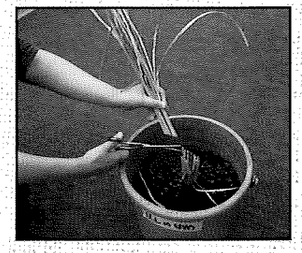
6 稲かり

稲をほす時も、
スズメに気をつけて

稲かりの目安は、穂が出てから 40 ～ 45 日ごろ、穂の約 90%が黄金色になったころです。収穫予定日の 10 日くらい前に水をぬき（落水）、乾かしてから稲をかります。かりとったら穂を下にして根元をしばり、風通しがよい場所で 10 日ほどほします。

①落水する

②稲をかる



③稲をほす